

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	金城学院大学
設置者名	学校法人 金城学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本語日本文学 学科	夜・通信	8	0	12	20	13	
	英語英米文化学 科	夜・通信			8	16	13	
	外国語コミュニ ケーション学 科	夜・通信			8	16	13	
	音楽芸術学 科	夜・通信			8	16	13	
生活環境学部	生活マネジメン ト学 科	夜・通信		0	10	18	13	
	環境デザイン学 科	夜・通信			11	19	13	
	食環境栄養学 科	夜・通信			12	20	13	
国際情報学部	国際情報学 科	夜・通信		0	6	14	13	
人間科学部	現代子ども教育 学 科	夜・通信		0	16	24	13	
	多元心理学 科	夜・通信			10	18	13	
	コミュニティ福 祉学 科	夜・通信	10		18	13		
薬学部	薬学 科	夜・通信	0	30	38	19		
看護学部	看護学 科	夜・通信	0	13	21	13		
(備考) 設置後完成年度を超えていない学部(看護学部)については、完成年度までの設置計画に基づいて記載している。教育課程の変更途上である学科については、当年度に配置されている授業科目で記載している。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	金城学院大学
設置者名	学校法人 金城学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kinjo-gakuin.jp/about/organization/index.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社監査役	2021.4.1 ～ 2024.3.29 (3年)	学識経験者としての経験をもって、学校法人運営に対する指導・助言を掌る。
非常勤	同窓会会長	2021.4.1 ～ 2024.3.29 (3年)	学識経験者としての経験をもって、学校法人運営に対する指導・助言を掌る。
非常勤	株式会社会長	2021.4.1 ～ 2024.3.29 (3年)	学識経験者としての経験をもって、学校法人運営に対する指導・助言を掌る。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	金城学院大学
設置者名	学校法人 金城学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>授業計画(シラバス)は全学で統一の様式を使用しており、作成する際は、全学共通のマニュアルに沿うこととしている。</p> <p>授業担当者が作成した授業計画案は、各学科の委員会等でディプロマ・ポリシーとの整合性、授業の方法と内容、授業回数、評価方法等の確認を行い、必要な場合は修正を行う。</p> <p>前年度の2月からWEB上で公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>各授業において、学修成果の評価に係る課題、レポート、小テストなどの詳細はシラバスに記載し、あらかじめ学生に示している。また、全学統一ルールとして、授業の欠席回数が授業回数の3分の1以上となった場合は単位を与えない。</p> <p>単位授与はあらかじめ公表している以下の全学統一成績評価基準により行う。</p> <p>成績評価基準：A A=90点～100点、A=80点～90点未満、B=70点～80点未満、C=60点～70点未満、F=60点未満</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の客観性と厳格性を確保するため全学でGPAを導入し、履修要覧に詳細を記載し、ホームページで公表している。</p> <p>本学のGPAは成績評価とそれぞれのGP(AA=4、A=3、B=2、C=1)を定め、以下の計算式により1単位あたりの成績平均点数を示すものとしている。GPAは成績単位修得通知表に記載し、学生の学修意欲向上に役立てている。</p> <p>成績の分布状況の把握は、GPA値を学科・学年別にヒストグラムにすることにより確認している。</p> $GPA = \frac{4 \times AA \text{の単位数} + 3 \times A \text{の単位数} + 2 \times B \text{の単位数} + 1 \times C \text{の単位数}}{AA \cdot A \cdot B \cdot C \cdot \text{不合格となった履修登録単位数合計}}$	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://busho.kinjo-u.ac.jp/rishu/youran/y2022gakubu.pdf (P16)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定方針は教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するかを定める基本的な方針であり、学修成果の目標とする。</p> <p>具体的には大学として、また各学科別に身に付ける4能力を示し、それらを身に付け総合的に活躍できる学生に学位を授与としている。</p> <p>卒業認定に関しては共通教育科目、学科の専門科目等から卒業要件としている科目の単位を修得することにより、卒業の認定に関する方針で示した能力を修得できるようカリキュラムを組んでいる。</p> <p>卒業認定は、学則で定める「卒業に必要な最低修得単位数」、を修得しているか否かによる。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	金城学院大学
設置者名	学校法人 金城学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kinjo-gakuin.jp/report/finance/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kinjo-gakuin.jp/report/finance/index.html
財産目録	https://www.kinjo-gakuin.jp/report/finance/index.html
事業報告書	https://www.kinjo-gakuin.jp/report/finance/index.html
監事による監査報告(書)	https://www.kinjo-gakuin.jp/report/finance/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画)	対象年度: 2021年度)
公表方法: https://www.kinjo-gakuin.jp/report/business/index.html	
中長期計画(名称: 金城学院中期計画)	対象年度: 2020~2024年度)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/evaluation/>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/evaluation/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/) (概要) 【文学部】 日本語あるいは外国語または音楽演奏を通して言語運用能力や自己表出力、芸術的表現力を涵養するとともに、伝統文化を内省し、人類の精神的所産である文芸への認識を深めることにより、古今東西を視野に入れた文化力や人間の行動原理を支配する高度の教養の獲得を目指し、現代社会や未来社会をリードする人材を育成する。 【日本語日本文化学科】 日本文学だけではなく日本文化を広く探求し、その成果を発信する能力を育てる教育を進める。それと同時に、中学校、高等学校の教員養成の課程のほか、司書、司書教諭、博物館学芸員の資格課程および日本語能力検定試験に対応した日本語教員養成の授業科目も設置して、職業意識の高い人材を育成する。 【英語英米文化学科】 イギリス、アメリカをはじめとする英語圏の文化と言語を幅広く理解するとともに、高度な英語運用能力を養成する教育を進め、同時に、中学校、高等学校の教員養成の課程のほか、早期英語教育指導者養成プログラム、通訳士、翻訳士養成プログラム、エアラインプログラムを設け、日本と世界で活躍しうる人材を育成する。 【外国語コミュニケーション学科】 フランス語、ドイツ語、中国語のいずれかと英語を活用できる人材を育成する。また、外国の文化を日本という視点に立って理解し、その文化の理解で得たものを日本社会で応用できる、より実践的な、社会に貢献できる人材を育成する。中学校、高等学校の教員のほか、外国人の母語を理解した日本語教員も養成する。 【音楽芸術学科】 演奏活動を通して鍛えた豊かな感性、芸術作品と芸術活動への理解に基づく洞察力、自己を律する強い精神力を活かし、音楽分野をはじめ社会の様々な分野で活躍しうる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kinjou.ac.jp/ja/about/information/policies/) (概要) 【日本語日本文化学科】 日本語日本文化学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、日本語や日本文化に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。 1. 知識・理解 (1) 日本語および日本文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。 2. 汎用的技能 (2) 日本語の特性や日本文化の諸問題についての情報を適正に収集し、さまざまな研究理論を用いて分析し考察することができる。

(3) 日本語運用能力の基礎や種々の表現方法を修得し、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。

3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義のキリスト教と日本文化の出会いを生かし、異なる価値観を持つ人々との共存に向けて行動し、社会に貢献することができる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

(6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

【英語英米文化学科】

英語英米文化学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、英米の文化や英語に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

(1) 高度な英語運用能力を持ち、英米の文化や英語に関する専門的知識と豊かな人間性を支える教養を身につけている。

2. 汎用的技能

(2) 英米の文化または英語の諸問題について、英米文化学・英米文学、英語学・言語学や英語教育学の研究方法を用いて適切に分析し考察することができる。

(3) 高度な英語運用能力を修得して、世界の多様な人々とコミュニケーションをとることができる。

3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義のキリスト教との出会いを生かし、異なる価値観を持つ人々との共存に向けて積極的に行動し、社会に貢献することができる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

(6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

【外国語コミュニケーション学科】

外国語コミュニケーション学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、世界の言語や文化に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

(1) 日本を含む世界の多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

(2) 世界の言語や文化の諸問題についての情報を適正に収集し、さまざまな研究理論を用いて分析し考察することができる。

(3) 日本語をはじめ外国語や種々の表現方法を修得し、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。

3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義のキリスト教との出会いを生かし、異なる価値観を持つ人々との共存に向けて積極的に行動し、社会に貢献することができる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

(6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

組むことができる。

【音楽芸術学科】

音楽芸術学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、音楽芸術に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

(1) 音楽芸術に関する専門的知識と演奏技能を身につけるとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

(2) 音楽芸術の実技と理論を通じて身につけた感性と思考力を用いて、物事を的確に分析し考察することができる。

(3) 日本語や英語で多様な人々とコミュニケーションを行うとともに、音楽演奏を通じて様々な楽想を適切に表現し伝えることができる。

3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義のキリスト教との出会いを生かし、異なる価値観を持つ人々との共存に向けて積極的に行動し、社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

(6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな研究課題に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kinjou.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【日本語日本文化学科】

日本語日本文化学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

(1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。

(2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、日本語と日本文化を扱う本学科の専門性を踏まえた表現方法を修得し、世界の中の日本を多角的に考える力の向上を図ります。

(3) 専門教育科目では、学生が日本語の運用能力や日本文化に関する知識・技能を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。

(4) 基礎となる研究理論を学ぶ「基幹科目」と、幅広い応用思考力を学ぶ「展開科目」を設置して、日本語と日本文化に関して深く理解できるよう科目を編成します。

(5) 日本語の正確な運用能力を身につけるために「基幹科目」を設置し、読解力・発信力の双方にわたる知識・技能を修得できるよう科目を編成します。

(6) 学生が身につけた知識・技能や態度を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。

(7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に「卒業論文」を設置します。

2. 教育方法

(8) 講義科目においては履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。

(9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。

(10) 実習科目においては、体験を通して知識・技能を身につけ、柔軟な思考力を養うプログラムを編成して実施します。

(11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。

(12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザーがそれぞれの学生と面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

3. 評価

(13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられるように、学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、個々の教員が適正に評価を実施します。

(14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、アセスメント・ポリシーは別に定めます。

【英語英米文化学科】

英語英米文化学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

(1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。

(2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、本学科の専門性を踏まえた表現方法を修得し、多角的に考える力の向上を図ります。

(3) 専門教育科目では、学生が英語の高度な運用能力を身につけると同時に英米文化学・英米文学、英語学・言語学、英語教育学、通訳・翻訳学に関する専門的知識を身につけるように、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。専門分野の体系性に基づき、適切な内容の授業を編成します。

(4) 学生が英語の高度な運用能力を身につけるように、「基幹科目」を設置し、英語で読む、聞く、書く、話すことの4技能を教育するよう科目を編成します。

(5) 学生が英米文化学・英米文学、英語学・言語学の基本的知識を身につけるように「基礎科目」を設置し、概論を教育します。さらに「展開科目」を設置し、上記の分野、および英語教育学、通訳・翻訳学等の発展的な内容を教育するよう科目を編成します。

(6) 通訳・翻訳の専門技能を身につけることを目指す学生のために、「展開科目」および「演習科目」を設置し、きわめて高度な英語運用能力と通訳技法を教育するよう科目を編成します。

- (7) 学生が他者の立場や見解を理解しつつ、自らの意見を発信する力を養うように、「演習科目」を設置し、プレゼンテーションとディスカッションの指導を行い、意見交換を重視した教育を行うよう科目を配置します。
- (8) 学生が英米文化学・英米文学、英語学・言語学および英語教育学の研究方法を用いて課題を適切に分析・考察し、その成果を論文にまとめる力を身につけるように、卒業年次に「卒業研究」を設置します。

2. 教育方法

- (9) 講義科目においては履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (11) 実習科目においては、体験を通して知識・技能を身につけ、柔軟な思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (12) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (13) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザーがそれぞれの学生と面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

3. 評価

- (14) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられるように、学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、個々の教員が適正に評価を実施します。
- (15) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、アセスメント・ポリシーは別に定めます。

【外国語コミュニケーション学科】

外国語コミュニケーション学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、さまざまな言語と文化を扱う本学科の専門性を踏まえた表現方法を修得し、多角的に考える力の向上を図ります。
- (3) 専門教育科目では、学生が世界の言語や文化に関する知識・技能を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) さまざまな研究理論と幅広い地域の文化を学ぶ「基礎科目」「展開科目」を設置して、さまざまな言語と文化に関して深く理解できるよう科目を編成します。
- (5) 外国語の高度な運用能力を身につけるために「基幹科目」を設置して、国内外で活躍できる知識・技能を修得できるよう科目を編成します。
- (6) 学生が身につけた知識・技能や態度を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年

次に「卒業研究プロジェクト」を設置します。

2. 教育方法

- (8) 講義科目においては履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 実習科目においては、体験を通して知識・技能を身につけ、柔軟な思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザーがそれぞれの学生と面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

3. 評価

- (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられるように、学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、個々の教員が適正に評価を実施します。
- (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、アセスメント・ポリシーは別に定めます。

【音楽芸術学科】

音楽芸術学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実技、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、さまざまな言語と文化を扱う本学科の専門性を踏まえた表現方法を修得し、多角的に考える力の向上を図ります。
- (3) 専門教育科目では、学生が音楽芸術に関する知識・技能を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 音楽芸術の諸分野はもとより広く芸術の各分野に関して深く学ぶことができるよう、多様な授業科目からなる「基礎科目」「展開科目」を編成します。
- (5) 楽曲に対する的確な解釈に基づく高度な演奏能力を身につけるために「基幹科目」を設置して、社会の様々な分野で活躍できる知識・技能を修得できるよう科目を編成します。
- (6) 学生が身につけた知識・技能や態度を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に「卒業演奏」「卒業作品」「卒業論文」を設置します。

2. 教育方法

- (8) 講義科目においては履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。

- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 実技科目においては、個人レッスンはもとより集団レッスンにおいても、一人ひとりの学生の技能が着実に向上するよう工夫して授業を実施します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

3. 評価

- (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられるように、学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、個々の教員が適正に評価を実施します。
- (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、アセスメント・ポリシーは別に定めます。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.kinjou.ac.jp/ja/about/information/policies/>）

（概要）

【日本語日本文化学科】

日本語日本文化学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、日本語や日本文化に関心を持ち、かつ、その関心を礎にして異なる価値観を持つ人々と共存することの重要性を理解している学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

- (1) 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力に加え、国語、地理・歴史の十分な学力を有し、幅広い教養と高い専門性の修得をめざしている学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

- (2) 日本語、日本文化、日本の社会に関わる学問領域の課題を追求し、理解を深め、日本および世界に向けて発信しようとする学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- (3) 自律的に研究に取り組み、積極的に社会へ貢献しようとする学生を求めます。

【英語英米文化学科】

英語英米文化学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、言語や文化に関心を持ち、異なる価値観を持つ人々と共存することの重要性を理解している人を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

- (1) 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力に加え、高度な英語運用能力を身につけるのに必要な基盤となる英語読解・表現能力を有し、幅広い教養と高い専門性の修得をめざしている学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

- (2) イギリス、アメリカをはじめとする英語圏の文化および言語に対する幅広い関心と探求心を備えた人、高度な英語運用能力を獲得することに対して強い学修意欲を持つ学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- (3) 専門的に学んだことを生かし社会に貢献する熱意を持つ学生を求めます。

【外国語コミュニケーション学科】

外国語コミュニケーション学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、言語や文化に関心を持ち、異なる価値観を持つ人々と共存することの重要性を理解している人を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

(1) 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力に加え、国語、英語、地理・歴史の学力を有し、幅広い教養と高い専門性の修得をめざしている学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

(2) 言語、文化、社会に関わる学問領域の課題を追求し、理解を深め、社会に向けて発信しようとする学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(3) 自律的に研究に取り組み、積極的に社会へ貢献しようとする学生を求めます。

【音楽芸術学科】

音楽芸術学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、音楽芸術を愛し、演奏能力の向上に取り組み、音楽芸術を通じた社会貢献の重要性を理解している人を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

(1) 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力に加え、ことに音楽科の学力を有し、幅広い教養と高い専門性の修得をめざしている学生を求めます。学科の目的を踏まえ、入学時までには演奏能力等の一層の向上を図っていただきたい。

2. 思考力・判断力・表現力

(2) 個々の楽曲を音楽芸術の歴史に位置づけ自己の解釈に基づく演奏を社会に発信するとともに、異なる解釈や演奏から学ぼうとする学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(3) 音楽演奏を通して主体的に、多様な人々と交流しようとする学生を求めます。

学部等名 生活環境学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/>）

（概要）

【生活環境学部】

生活者の視点から「真に豊かな生活」の実現を目指して、人間と環境をめぐる生活の諸課題を学際的、総合的に究明するとともに、その解決に資する実践的な知識、技術を修得した人材を育成する。特に、生活課題の解決にあたり、人と環境にやさしいライフスタイルを提案し、実践できる能力を養成する。

【生活マネジメント学科】

環境を生活者の視点からとらえ、家族生活、消費生活における課題解決に必要な専門知識、技術を習得し、家族福祉、消費者福祉を達成しうる人材育成を目指す。情報活用能力と自己実現を目指す生活設計能力を開発し、より高い生活の質を実現するライフスタイルと生活環境のあり様を提案できる力を養成する。

【環境デザイン学科】

豊かで望ましい衣環境、住環境、地域環境の実現に取り組む人材を育成する。生活者の視点から、ユニバーサルデザイン、アメニティ、環境共生をキーワードとした「人と環境に

やさしいモノづくり」を学問的に究明するとともに、自ら実践ないし創造する技術的、政策的能力を養成する。

【食環境栄養学科】

現代人の健康保持や疾病予防に取り組み、食育を進める管理栄養士を養成する。基礎学力を重視して幅広い専門科目の分野横断的理解と、専門的な問題解決能力の養成を図る。ライフスタイルや生活環境と関連付け、生活を科学的に究明する力やトータルに食と健康を管理する能力を養成する。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【生活マネジメント学科】

生活マネジメント学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、消費生活・家族福祉・情報活用に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

(1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と消費生活・家族福祉・情報活用に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

(2) 消費生活・家族福祉・情報活用についての情報を適正に収集・分析し、自らの生活や社会において活用するために、さまざまな角度から論理的に考えることで問題を発見し、解決を図ることができる。

(3) 消費生活・家族福祉・情報活用に関する諸課題について、他者の立場や見解を理解・尊重するとともに、科学的な基盤に立ちながら自らの考えを適切に表現し伝えることができる。

3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働し、真に豊かな生活の実現という目標を目指して行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、生活者の視点から社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

(6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、消費生活・家族福祉・情報活用に関する新たな課題に取り組むことができる。

【環境デザイン学科】

環境デザイン学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、生活環境（衣環境や住環境）に関する専門的知識・技能・デザイン力を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

(1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と、衣環境もしくは住環境に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

(2) 情報を適正に収集・分析し、さまざまな角度から論理的に考えることで問題を発見し、その問題の構造を学問的に究明し、問題解決を図るための具体的方策を提案することができる。

(3) 異なった立場の人々の意見を傾聴・理解し、調整しながら、問題解決へと向かうことができる。

3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働し、真に豊かな生活の実現という目標を目指して行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、生活者の視点から社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

(6) これまでに修得した知識・技能・デザイン力・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

【食環境栄養学科】

食環境栄養学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、食と健康に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

(1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と食と健康に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

(2) 食と健康の問題に取り組む基礎能力を身につけ、情報を適正に取り扱い、さまざまな角度から問題点を論理的に考えて解決を図ることができる。

(3) 他者の立場や見解を理解・尊重し、科学的な基盤に立ちながら、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。

3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、公衆栄養に携わることによって社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

(6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【生活マネジメント学科】

生活マネジメント学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

(1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能・能力、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育および外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。

(2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、洞察力・論理的思考力・批判的思考力・多角的に考える力、さらにプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など大学生として必要な基本的能力の向上を図ります。また学科の専門性を踏まえたレポート作成の勉学を通して授業態度と自己学修の方法を修得します。

- (3) 専門教育科目では、学生が消費生活・家族福祉・情報活用に関する専門分野の知識・技能を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 専門分野の体系に基づき、「基礎科目」、「展開科目」を設置して、生活の課題解決に必要な専門知識・技能を修得する内容の授業を編成します。また学生が身につけた知識・技術を活用し実践力を修得するために各学年に研究演習科目を設置します。
- (5) 学科の専門性を生かした資格と職業の履修モデルとして、「ファイナンシャルプランナー養成コース」と「教員・公務員養成コース」の2コースを設置し、それぞれに「コース必修科目」、「コース選択科目」、また「コース共通科目」を編成します。
- (6) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に卒業研究を実施します。

2. 教育方法

- (7) 講義科目においては履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (8) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を实践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 実習科目においては、知識や技能を身につけ、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (10) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (11) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。

3. 評価

- (12) 本学では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、大学レベル、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
- (13) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準および具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定めます。

【環境デザイン学科】

環境デザイン学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、学科での学びに対する動機づけを図る科目、大学での学びのための基礎力を身につける演習、デザイン基礎力を身につける実習・演習を設け、専門的知識と技能およびデザイン力を身につける環境デザ

イン学科独特の学びへの理解を深め、円滑な移行を図ります。

- (3) 専門教育科目では、学生が生活者の視点で豊かな生活環境（衣環境や住環境）とは何かについて分析・考察し、学問的に究明するための知識・技能・デザイン力・態度を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 生活環境学（衣環境や住環境）の体系性にに基づき、「学科基礎科目」「展開科目」を設置して、それぞれの専門分野で幅広く活用できる応用的な知識・技能・デザイン力を修得できるよう授業を編成します。
- (5) 多様な文化、異なった立場の隣人や社会のために貢献できるようインクルーシブデザインの考え方を取り入れます。また「研修科目」を編成し、多様な文化、環境に根ざした国内外の優れたデザイン作品、その周辺環境や人々に触れ、豊かな生活環境について理解を深めるための機会を設けます。
- (6) 専門的な知識や技能を活用しながら、社会で活躍できる人材を育成するために、資格取得を支援する科目を設置します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に「卒業研究演習」「卒業論文・制作」を設置します。その成果は、発表会・展示会を通して、学内外の人々に発信します。

2. 教育方法

- (8) 講義科目においては、履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。必修・コース必修・資格必修の実験・実習科目では、それぞれ適正な人数で授業を行います。
- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 実験・実習科目においては、知識や技能、また科目によってはさらにデザイン力を身につけ、思考力と実践力を養うプログラムを編成して実施します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。

3. 評価

- (13) 本学では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
- (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準および具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定め、多面的な評価を行います。

【食環境栄養学科】

食環境栄養学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育および外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。

- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、高校から大学への橋渡しとなる「基礎科目」「演習科目」を編成し、基本的知識の修得および協調性・プレゼンテーション能力・論理的思考力の向上を図ります。
- (3) 専門教育科目では、学生が食と健康の知識・技能・態度を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 専門分野の体系性に基づき、「基礎科目」、「展開科目」を設置して、管理栄養士として社会で幅広く活用できる応用的な知識を修得できるよう授業を編成します。
- (5) 学生が食と健康を総合的に管理する能力を身につけるために「専門基礎分野科目」と「専門分野科目」を系統立てて設置し、講義科目から実験・実習科目へと科目の内容を発展させて実践的な教育を行います。
- (6) 学生が健康の維持・増進や疾病予防の現代的課題を科学的に究明するように、様々な課題に取り組む「研究演習系科目群」を編成します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に卒業研究等を実施します。

2. 教育方法

- (8) 講義科目、特に基礎科目および展開科目においては、履修者上限人数を原則40名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 実験・実習科目においては知識や技能を身につけ、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。

3. 評価

- (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
- (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するため、達成すべき質的水準および具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定めます。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>）

（概要）

【生活マネジメント学科】

生活マネジメント学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、本学科の教育目標を理解し、消費生活・家族福祉・情報活用に興味を持っている学生を求めます。また、生活者の視点から、真に豊かな生活の実現を主体的に模索し、新たな課題に取り組み、社会に貢献できる学生を求めます。

そのため、入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

- (1) 高等学校の教育課程で学修した内容のうち、本学科の専門分野に関わりのある教科について深い知識・技能を身につけている学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

(2) 生活者の視点から真に豊かな生活を実現するための諸課題を自ら発見し、主体的に解決するために必要な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(3) コミュニケーション能力を有し、他者と協働し、真に豊かな生活の実現をめざして、社会のために主体的に行動し、貢献するという目的意識を持っている学生を求めます。

【環境デザイン学科】

環境デザイン学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目標を尊重し、豊かな生活環境（衣環境や住環境）の実現に関心を持ち、それに向けて、必要な知識・技能・デザイン力を身につけ、実践する行動力と意欲のある学生を求めます。そのため入学に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

(1) 文系科目、理系科目を問わず、高等学校の教育課程を幅広く学修し、修学に必要な学力を有するとともに、本学科の教育に強い関心を持つ学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

(2) さまざまな社会の問題に関心を持ち、それについて考え、考えた内容を社会に向けて発信したいと考える意欲のある学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(3) 主体性を持って課題を発見し、その課題解決に向けて、多様な人々の意見を傾聴・理解し、それらの人々と協働できる学生を求めます。

【食環境栄養学科】

食環境栄養学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、食と健康に関心を持ち、医療現場および地域社会で信頼される管理栄養士を目指す学生を求めます。そのため入学に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

(1) 高等学校等における学修を通じて全般的な基礎学力および理科科目の学力を有するとともに、本学科の教育に強い関心を持っている学生を求めます。

(2) 高等学校の教育課程で学修した内容のうち、本学科の専門分野に関わりのある教科について深い知識・技能を身につけている学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

(3) 食と健康に関わる学問領域の課題を追求し、理解を深め、社会に向けて発信しようとする意欲を持っている学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(4) 専門性を身につけ、多様な人々と協働して社会のために主体的に行動し、貢献するという目的意識を持っている学生を求めます。

学部等名 国際情報学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/>)

(概要)

【国際情報学科】

国際化、情報化に関する専門的な知識と技能を総合的に学習し、多角的な視点から現代社会の諸制度と構造を深く把握したうえで、高度な専門的・実践的能力を十二分に活かして

<p>現実問題に取り組む人材を育成する。具体的課題として、国際社会、地域研究、現代社会、国際ビジネス、女性リーダーシップ、広告ビジネス、マスコミ、情報デザイン、情報技術の9つの分野を中心に、問題解決に実践的に取り組むことのできる能力を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)</p>
<p>(概要) 【国際情報学科】 国際情報学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、グローバル化と情報化が進む現代社会に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) グローバル化と情報化が進む現代社会の仕組みを理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。 2. 汎用的技能 <ol style="list-style-type: none"> (2) 現代社会の問題点を、社会科学的な研究方法や情報リテラシーを駆使しつつ、世界的な視野から分析・考察することができる。 (3) 言語(日本語・外国語)に加え、音声・映像媒体、行動といった多様な表現方法によって自らの考えを適切に他者に伝えることができる。 3. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> (4) 自らを律し、互いの力を生かし合う協調型リーダーシップを発揮しながら行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。 (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、貢献することができる。 4. 統合的な学修経験と創造的思考力 <ol style="list-style-type: none"> (6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)</p>
<p>(概要) 【国際情報学科】 国際情報学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。 教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能・能力、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。 (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、入門的な講義科目と協働的な学修を行う演習科目を組み合わせることで、現代社会を読み解くための基礎的知識の修得および協調性・表現能力・論理的思考力の向上を図ります。 (3) 専門教育科目では、学生が現代社会のグローバル化と情報化に関する知識・技能

を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。

- (4) 学生が社会科学の共通基盤を身につけられるように、「基幹科目」を設置し、社会人として通用する知識・技能を修得できるよう科目を編成します。
- (5) グローバル化と情報化の問題点と可能性への理解を深めるため、「展開科目」を設置し、多角的な研究方法と情報リテラシーを用いて分析・考察できるよう科目を編成します。また「展開科目」には、少人数の実践的な学修を通じてリーダーシップを養う科目を設置します。
- (6) 学生が修得した知識・技能を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする学修内容を総合化し活用・研究できるように、卒業年次に「卒業論文・卒業制作」を設置します。

2. 教育方法

- (8) 講義科目においては履修者上限人数を原則 120 名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 実習科目においては、体験を通して知識・技能を身につけ、柔軟な思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。

3. 評価

- (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
- (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)を定めます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【国際情報学科】

国際情報学科は、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、グローバル化と情報化が進む現代社会に関する専門的知識・技能を身につけ、総合的に活用できることを強い意志を持って達成しようとする学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く学修し、修学に必要な基本的な知識・技能を身につけている学生を求めます。
- (2) 高等学校の教育課程で学修した内容のうち、本学科の専門分野に関わりのある教科について深い知識・技能を身につけている学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

- (3) 入学までに学修した知識・技能を生かして課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけている。さらに本学科の専門分野の課題を探究し、学修成果を生かし種々の方法で社会の発展に寄与しようとする意欲を持っている学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(4) 自らを律し、専門性を身につけ、多様な人々と協働して隣人のため社会のために主体的に行動し、貢献するという目的意識を持っている学生を求めます。

学部等名 人間科学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/>)

(概要)

【人間科学部】

「発達する存在」「心理的存在」「支えあう存在」の3つを人間理解の中核に置き、それぞれに対応した学科において専門的理解を深めるとともに、人間への総合的な探求を学部教育の基本的理念として掲げ、急激に変化する現代社会のなかで個人としても職業人としても自律的に生きていくことのできる人材を育成する。

【現代子ども教育学科】

人間の生涯発達のなかで、とくに乳幼児期から児童期に至る発達の初期段階に重点をおいて、子どもに関わる心理、教育、保育、福祉、文化などの領域を幅広く学び、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭として、また育児支援センターなど家族支援を含む各種の機関で活躍することのできる専門的力量を持った人材を育成する。

【多元心理学科】

心理学の基礎的事項を幅広く学ぶことにより、人間の精神的活動と社会的行動への理解を深めることを目指す。学生の学習興味および将来設計に応じて、より専門的な心理学の知識と技能を選択的に学習することにより、現代社会が抱える多様な課題に柔軟に対処し、心の専門家として貢献できる人材を育成する。

【コミュニティ福祉学科】

少子高齢社会を迎え、福祉社会の形成が求められる今日、社会福祉学・人間福祉学を理論、実践の両面から幅広く学び、社会福祉の現場、さらに保健、医療、教育、住環境など多様な領域で活かせる社会福祉の専門的な知識、技術を習得し、生活者の視点からコミュニティ形成を担う人材を育成する。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【現代子ども教育学科】

現代子ども教育学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、教育・保育における専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

(1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と教育・保育に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

(2) 教育・保育問題に取り組む基礎能力を身につけ、情報を適正に取り扱い、色々な角度から問題点を論理的に考えて解決を図ることができる。

(3) 他者の立場や見解を理解・尊重し、科学的な基盤に立ちながら自らの考えを適切に表現し伝えることができる。

3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に

行動し、その考え方を教育・保育に生かすことで社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

- (6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

【多元心理学科】

多元心理学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、主に社会心理学、臨床心理学、健康心理学、産業心理学、発達・教育分野の心理学、医療・福祉分野の心理学の専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と、心を生み出す仕組み・心理学の諸理論・心理学的測定法と心理アセスメント・心理学実験に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

- (2) 調査面接・観察・実験などから得られた情報を適正に収集分析し、色々な角度から批判的実証的に考えることで、現代社会に生きる人間が抱える問題を発見し、解決策を提案することができる。
- (3) 多様な人々とコミュニケーションするために、人間を複眼的に見る方法や種々の表現方法を修得している。

3. 態度・志向性

- (4) 自らを律し、人間を総体として客観的に理解しながら、他者と協働して目標実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。
- (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、心の専門家として貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

- (6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

【コミュニティ福祉学科】

コミュニティ福祉学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、これからの新しい生き方、地域づくりを担う「ソーシャルウーマン＝社会に積極的に参加し、多様な地域住民とともに、すべての人々が幸せに暮らすことができる社会をつくる女性」の養成に資する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と、福祉課題の解決およびコミュニティ形成に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

- (2) コミュニティにおける生活と福祉に関する情報を適正に収集・分析し、多様な角度から論理的に考えることで問題を発見し、解決を図ることができる。
- (3) 福祉課題の解決およびコミュニティ形成に関する技法や種々の表現方法を修得し、様々な体験を通じて多様な人々とコミュニケーションをとることができる。

3. 態度・志向性

- (4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。
- (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、困難を抱えている人々を支援するために主体的に行動し、コミュニティや社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

- (6) これまでに修得した知識・技能・態度などを総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【現代子ども教育学科】

現代子ども教育学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育及び外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、高校から大学への橋渡しとなる「基礎科目」「演習科目」を編成し、基本的知識の修得および協調性・プレゼン能力・論理的思考力の向上を図ります。また早期体験学修を通じて教育者・保育者を目指す学生としての自覚を促します。
- (3) 専門教育科目では、学生が教育・保育に関わる知識・技能・態度を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 教育・保育に関する諸学問の体系性に基づき、「学科基礎科目」「学科展開科目」「資格関連科目」を設置して、教育者・保育者として社会で幅広く活用できる応用的な知識を修得できるよう授業を編成します。
- (5) 学生が身につけた専門知識を活用して実践する「実習科目」を設置し、教育者や保育者となる上で必要とされる実践力の基礎を培います。
- (6) 学生が身につけた知識・技能・態度を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように卒業年次に「卒業論文・卒業制作」を設置します。

2. 教育方法

- (8) 講義科目においては履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 実習、演習科目においては知識や技能を身につけ、総合的に活用し、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

3. 評価

- (13) 本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
- (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準及び具

体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定め、多面的な評価を行います。

【多元心理学科】

多元心理学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育及び外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、心とは何かを理解し、心と行動の関係を考えるため、論理的思考能力の向上を図ります。
- (3) 専門教育科目では、学生が心理学の知識・スキルを身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 心理学の体系性に基づき、「学部共通科目」「学科基礎科目」「学科展開科目」「演習科目」「卒業論文」「資格関連科目」の科目区分の下、適切な内容の授業を編成します。
- (5) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に卒業論文等を実施します。

2. 教育方法

- (6) 講義科目においては心理学の潮流と心の科学への取り組みの基礎的理解を目的とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (7) 演習科目においては、心を研究する学問知とフィールド知の双方向性を理解することを目的とし、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (8) 実験・実習科目においては、研究手法の技術修得を目的とし、知識や技能を身につけ、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (9) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (10) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

3. 評価

- (11) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
- (12) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準及び具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定めます。

【コミュニティ福祉学科】

コミュニティ福祉学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得でき

るように、共通教育科目、専門教育科目およびそのほか必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能・能力、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育および外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、【学科基礎科目】(必修7単位)において「ソーシャルウーマン総論」を設置し、ソーシャルウーマンのロールモデルについて理解を深めるとともに、「相談援助演習(1)」では人間関係トレーニングを通じて、援助的コミュニケーションの基礎的内容として自己理解、自己覚知を促します。
- (3) 専門教育科目では、学生が社会のあらゆる場で福祉マインドを実践できるソーシャルウーマンとしての知識・技能・態度を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 「基礎科目」、「展開科目」を設置して、「社会そうぞう力」、「協働実現力」、「問題解決力」を身につけたソーシャルウーマンとして社会で幅広く活躍できる知識・技能を修得できるよう科目を編成します。
- (5) 体験型学修を通して福祉課題の解決およびコミュニティ形成を担う現場への理解を深めることができるよう「ソーシャルウーマン実践科目」を設置し、福祉マインドを実践する力の向上を図ります。また、多様化・複雑化・深刻化しつつある生活問題を専門職として解決を図るソーシャルワーカーの訓練、指導を図るために「ソーシャルワーカー実践科目」を編成します。
- (6) 学生が身につけた知識・技能や態度を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に「国家試験対策科目」ならびに「卒業研究」、もしくは「卒業論文」のいずれかを選択必修できるよう編成します。

2. 教育方法

- (8) 講義科目においては履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニングなどを取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導体制を整え、ディープ・アクティブ・ラーニングなどを取り入れた教育方法を実施し、プレゼンテーション技術やコミュニケーション力の修得を図ります。
- (10) 実習および研修、実践科目においては、サービスラーニング型の体験や実習、研修を通して知識・技能を身につけ、柔軟な思考力と判断力を養うプログラムを編成します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザーがそれぞれの学生と面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

3. 評価

- (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれら

を総合的に活用する力を確実に身につけられるように、学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。

(14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準および具体的な実施方法などに関するアセスメント・ポリシーを別に定めます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【現代子ども教育学科】

現代子ども教育学科では、本学の建学の精神を踏まえた人材育成（教育目的）を尊重し、本学科の教育目的を理解し、関心を持ち、教育・保育現場で専門性を生かして活躍できる教育者・保育者を目指す学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

(1) 高等学校の教育課程を幅広く学修し、修学に必要な基本的な知識・技能を身につけている学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

(2) 高い学修意欲を持ち、新しい課題に対して工夫・改善を凝らしながら解決する意欲を持つ学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(3) コミュニケーション能力にすぐれ、思いやりと協調性を持ち、多様な人々を理解し、ともに行動できる学生を求めます。

【多元心理学科】

多元心理学科では、本学の建学の精神を踏まえた人材育成（教育目的）を尊重し、本学科の教育目標を踏まえ、自己と他者の理解に関心を持ち、心理学の学修に積極的に取り組む意欲のある学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

(1) 高等学校等における学修を通じて、文学などに表現される人間模様について想像力を持って理解することや、社会的事象に関心を持って理解を深めることができる学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

(2) 人間に対する共感的な関心に加え、人間の心理と社会などの事象について、客観的・分析的な視点から課題を探求し、自身の考えについて論理的に説明ができる学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(3) 自身の考えを他者に伝える、他者の考えに耳を傾け理解するなど、他者を尊重しつつ自己主張ができる学生を求めます。

【コミュニティ福祉学科】

コミュニティ福祉学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、これからの新しい生き方、地域づくりを担う「ソーシャルウーマン＝社会に積極的に参加し、多様な地域住民とともに、すべての人々が幸せに暮らすことができる社会をつくる女性」を目指し、ボランティア活動、地域活動、社会貢献活動に関心が高い人、さらに専門性の高いソーシャルワーカーをめざす意欲的な学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

(1) 高等学校等における学修を通じて、全般的な学力とともに、社会系の科目に関心のある人や高校で福祉関連の科目を履修した学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

(2) 社会の中の様々な課題に関心を持ち、意欲的に課題の理解や解決に向けて取り組もうとする学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(3) 多様な人々とつながりをつくり、社会に積極的に参加していこうとする学生を求めます。

学部等名 薬学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/>)

(概要)

【薬学科】

高いコミュニケーション能力を備え、人のこころが分かる専門性の高い薬学ジェネラリストを育て、地域社会並びに国内・国外の医療現場で信頼される薬剤師として活躍する人材を育成する。問題解決能力の向上と女性に特化した薬学教育の充実を図り、これらの教育の基盤となる研究環境を整備・充実して、医療現場の視点に立った医薬品開発研究に取り組み、人類の健康と福祉に貢献できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【薬学科】

薬学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、薬学領域における専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

(1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と薬学に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

(2) 薬学の問題に取り組む基礎能力を身につけ、情報を適正に取り扱い、色々な角度から問題点を論理的に考えて解決を図ることができる。

(3) 他者の立場や見解を理解・尊重し、科学的な基盤に立ちながら自らの考えを適切に表現し伝えることができる。

3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、薬事衛生に携わることによって社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

(6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【薬学科】

薬学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育及び外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図り、情報教育を実施します。専門教育科目における初年次教育では、高校から大学への橋渡しとなる「基礎科目」「演習科目」を編成し、基本的知識の修得および協調性・プレゼン能力・論理的思考力の向上を図ります。また早期体験学修を通じて薬学生としての自覚を促します。
- (3) 専門教育科目では、学生が薬学の知識・技能・態度を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 薬学の体系性に基づき、「基礎科目」、「基幹科目」、「展開科目」を設置して、薬剤師、薬学士として社会で幅広く活用できる応用的な知識を修得できるよう授業を編成します。
- (5) 学生が身につけた専門知識を活用して実践する「実習科目」を設置し、物質・生物の取り扱い、試験法、検査法、薬剤師業務の基本を修得できるような実習を編成します。
- (6) 学生が身につけた知識・技能・態度を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように「卒業研究」を設置し、実験研究や文献調査研究とそれらの成果発表を通じて、薬学ジェネラリスト・薬剤師としての研究マインドを醸成します。

2. 教育方法

- (8) 講義科目、特に基礎科目および基幹科目においての履修者上限人数は各学年在籍者数の半数(約75名)を原則とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 実習、演習科目においては知識や技能を身につけ、総合的に活用し、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

3. 評価

- (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。

<p>(14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準及び具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定め、多面的な評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/）</p>
<p>（概要） 【薬学科】 薬学科では、本学の建学の精神を踏まえた人材育成（教育目的）を尊重し、本学科の教育目的を理解し、関心を持ち、医療現場及び地域社会で信頼される薬剤師、専門性の高い薬学ジェネラリストである薬剤師を目指す学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。 また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高等学校等における学修を通じて確かな基礎学力及び理科学科の学力を有するとともに、本学科の教育に強い関心を持つ学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 <ol style="list-style-type: none"> (2) 高い学修意欲を持ち、新しい課題に対して工夫・改善を凝らしながら解決する意欲を持つ学生を求めます。 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 <ol style="list-style-type: none"> (3) コミュニケーション能力にすぐれ、思いやりと協調性を持ち、多様な人々を理解し、ともに行動できる学生を求めます。

<p>学部等名 看護学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/）</p>
<p>（概要） 【看護学科】 豊かな人間性を育むことにより、多様な価値観や文化を尊重し、人間への畏敬の念をもって他者をいたわり、思いやることのできる優しさを備え、看護学の専門知識に基づいて自ら考え、判断する力と、確かな看護技術をもって実践する能力を有し、看護の質向上に寄与するために研鑽を重ねることが出来る看護職者を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/）</p>
<p>（概要） 【看護学科】 看護学部看護学科では、所定の126単位を取得し、以下に定める能力を有すると認められた者に、学士(看護学)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間に対する畏敬の念と高い倫理観をもち、他者をいたわり思いやる豊かな人間性を有している。 2. 汎用的技能 <ol style="list-style-type: none"> (2) 地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。 (3) 健康上の課題に対し自ら幅広く多様な情報を収集、分析することによって、必要な看護を判断し、課題解決に向けて対応することができる。 3. 態度・志向性

- (4) 看護の専門的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた、安全・安楽な看護を実践することができる。
 - (5) 多職種と連携し、保健・医療・福祉チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。
4. 統合的な学習経験と創造的思考力
- (6) 看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【看護学科】

看護学部看護学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、「共通教育科目」と「専門教育科目」を、順序性を考慮し体系的に配置し、講義、演習、臨地実習を組み合わせたカリキュラムを編成します。カリキュラムの順序性・体系性をカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーで示し、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用します。

教育内容、教育方法、評価については次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 「共通教育科目」は、人間に対する畏敬の念と高い倫理性、豊かな人間性を養うため、福音主義キリスト教に基づく「金城アイデンティティ科目」、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養および多様な価値観を養う「金城展開科目」の3科目群を配置します。
- (2) 「専門教育科目」は、「導入科目」、「看護英語コミュニケーション科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」、「保健師課程科目」に区分します。
- (3) 「導入科目」は、大学での学びに円滑に移行し、大学生として必要な学修スキルを身につけるための科目と看護学を学ぶうえで豊かな人間性や高い倫理観を養うための科目を配置します。
- (4) 「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし、看護場面における英語でのコミュニケーションスキルを身につけるために、医療現場での看護実践を想定した授業による科目として配置します。
- (5) 「専門基礎科目」は、科学的根拠に基づいた看護実践の基礎となる知識を身に付けるため、「人間の身体のしくみと働き」、「健康障害と治療論」、「社会保障制度と社会環境」の3科目群を配置します。
- (6) 「専門科目」は、科学的根拠に基づく安全・安楽な看護実践に必要な専門知識・技術・態度を身に付けるため、「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」、「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」、「看護の統合と探究」の3科目群を配置します。
「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」の中に、「基礎看護学」、「地域・在宅看護学」、「グローバルヘルス看護学」の3領域を置き、看護学の基礎となる理論・専門知識と看護技術の修得、および国内外の保健医療福祉の現状を学修することで多様な社会資源、サービス、制度について理解し、多様な人々・地域を対象に看護実践ができる知識・技術を学修する科目を配置します。
「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」の中に、「成人看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「高齢者看護学」、「精神看護学」の5領域を置き、あらゆる成長発達段階と健康状態にある人々を対象に看護実践ができる知識・技術を学修する科目を配置します。
「看護の統合と探究」の中に、多職種との連携・協働について学修する科目、看護の質向上のための自己研鑽・探究心を養う科目を配置します。
- (7) 「保健師課程」は選択制とし、2年次以降に「保健師課程科目」として「公衆衛生看護学」の科目群を配置します。

<p>2. 教育方法</p> <p>(8) 主に知識の修得、理解を目的とした科目は、講義により実施します。</p> <p>(9) 主に修得した知識を模擬的・総合的に体験し技術を身につけることを目的とした科目は、演習により実施します。</p> <p>(10) 主に知識や技術を実務に応用するための能力を身につけることを目的とした科目は、臨地実習により実施します。</p> <p>(11) アクティブ・ラーニングや ICT システムを導入し、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。</p> <p>(12) 履修者数の上限を設定し、必要に応じて少人数グループで授業を実施します。</p> <p>3. 評価</p> <p>(13) 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的基準をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>【看護学科】</p> <p>看護学部看護学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、看護に関心を持ち、保健・医療・福祉分野および地域社会で、人々を最適な健康状態へと導く、信頼される看護職を志す学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 高等学校等の教育課程を修了またはそれに相当する程度の学力を有するなど、修学に必要な基本的知識・技能を身につけている。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(2) 入学までに学修した知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている。</p> <p>3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度</p> <p>(3) 自らを律し、看護の専門性を身につけ、多様な人々と協働して隣人のため社会のために貢献するという目的意識をもっている。</p>
--

② 教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational-organization/</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
文学部	—	24人	12人	9人	0人	0人	45人
生活環境学部	—	12人	12人	4人	6人	0人	34人
国際情報学部		12人	6人	4人	0人	0人	22人
人間科学部		29人	8人	4人	0人	0人	41人
薬学部		27人	8人	0人	13人	0人	48人
看護学部		8人	3人	5人	8人	4人	28人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			386人				386人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kinjo-u.ac.jp/kihp/KgApp/TOP					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	285人	241人	84.6%	1,140人	1,106人	97.0%	若干名	3人
生活環境学部	230人	239人	103.9%	920人	951人	103.4%	若干名	0人
国際情報学部	170人	165人	100%	700人	699人	102.9%	10人	9人
人間科学部	305人	286人	97.1%	1,250人	1195人	95.6%	15人	1人
薬学部	150人	197人	131.3%	900人	929人	103.2%	0人	0人
看護学部	100人	108人	108%	400人	108人	27%	0人	0人
合計	1,240人	1,236人	99.7%	5,310人	4,988人	93.9%	25人	13人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	315人 (100%)	2人 (0.6%)	279人 (88.6%)	34人 (10.8%)

生活環境学部	223 人 (100%)	2 人 (0.9%)	211 人 (94.6%)	10 人 (4.5%)
国際情報学部	191 人 (100%)	1 人 (0.5%)	164 人 (85.9%)	26 人 (13.6%)
人間科学部	331 人 (100%)	8 人 (2.4%)	294 人 (88.8%)	29 人 (8.8%)
薬学部	139 人 (100%)	0 人 (0%)	114 人 (82.0%)	25 人 (18%)
合計	1,199 人 (100%)	13 人 (1.1%)	1,062 人 (88.6%)	124 人 (10.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業科目は履修要覧等により、各授業の計画、方法と内容、授業回数等の詳細はシラバスに記載している。</p> <p>履修要覧は当該年度の4月から、シラバスは前年度の2月から大学ホームページで公表している。</p>

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学修成果に係る評価は全学統一の成績評価基準により行う。</p> <p>卒業認定は、学則で定める「卒業に必要な最低修得単位数」により行う。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本語日文化学科	128 単位	有	
	英語英米文化学科	128 単位	有	
	外国語コミュニケーション学科	124 単位	有	
	音楽芸術学科	124 単位	有	
生活環境学部	生活マネジメント学科	128 単位	有	
	環境デザイン学科	128 単位	有	
	食環境栄養学科	128 単位	有	
国際情報学部	国際情報学科	124 単位	有	
人間科学部	現代子ども教育学科	128 単位	有	
	多元心理学科	128 単位	有	
	コミュニティ福祉学科	128 単位	有	
薬学部	薬学科	187 単位	有	
看護学部	看護学科	128 単位	有	
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：
----------------------------	-------

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/campus-gallery-map/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本語日本文化学科	740,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
	英語英米文化学科	740,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
	外国語コミュニケーション学科	740,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
	音楽芸術学科	1,270,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
生活環境学部	生活マネジメント学科	740,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
	環境デザイン学科	780,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
	食環境栄養学科	780,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
国際情報学部	国際情報学科	760,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
人間科学部	現代子ども教育学科	740,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
	多元心理学科	740,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
	コミュニティ福祉学科	740,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
薬学部	薬学科	1,600,000円	200,000円	380,000円	施設設備費
看護学部	看護学科	1,320,000円	200,000円	380,000円	施設設備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生の修学状況を適宜把握し、適切な相談、助言、指導を行う。補習・補充教育、能力別クラス編成により、学力の不足を補うとともに、学力に応じた学びを支援する。また、障がいのある学生、経済的事情により修学が困難な学生に対しての支援を推進する。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 人生や職業生活を主体的かつ積極的に切り拓く「自立的なキャリア開発の姿勢」への学びを正課授業、ガイダンス等を通し支援する。加えて、キャリア支援組織の活動を推進し、進路決定までを学生一人ひとりに寄り添い支援する。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 心身の健康の保持、増進に係る支援を充実させる。また、ハラスメント防止に関する活動を推進するとともに、被害者救済の機能を充実させる。加えて、学生生活上のマナー、ITの安全、有効な利用法を啓発し、次世代をにんう社会人としての資質を養う。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F123310106568
学校名	金城学院大学
設置者名	学校法人 金城学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		269人	270人	285人
内 訳	第Ⅰ区分	152人	160人	
	第Ⅱ区分	69人	72人	
	第Ⅲ区分	44人	38人	
家計急変による支援対象者（年間）				12人
合計（年間）				297人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	28人		
計	28人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	36人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	36人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。